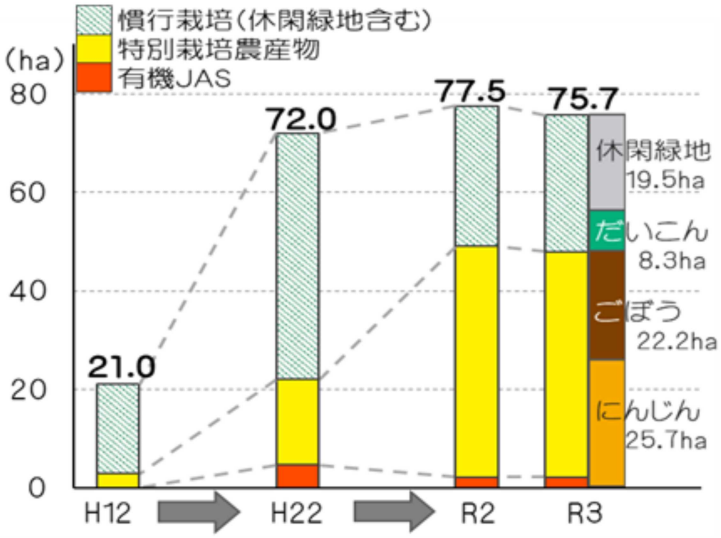
１　令和３年度「青森県攻めの農林水産業賞」大賞受賞
～有限会社ナチュラルファーム（おいらせ町）～

県では、「攻め」の姿勢で、新たな試みや創意工夫を凝らして収益力を高めるとともに、地域の活性化などに貢献している生産者や団体を表彰し、その業績をたたえている。

有限会社ナチュラルファームは、経営面積76haの約６割で特別栽培農産物と有機ＪＡＳの農産物を生産し、それら農産物を専門の卸売業者との契約により有利販売をしている。また、GLOBAL G.A.P.認証を取得し、労働環境整備や東南アジアへの輸出拡大に活かしており、環境に配慮した付加価値の高い野菜生産と大規模経営を両立させた農業経営を10年以上安定的に継続していることが高く評価され、収益力強化部門で大賞の受賞に至った。

経営者の山本夫妻



経営面積の推移

機械除草と土寄せ

にんじんの選別・箱詰作業

２　第41回田中稔賞受賞

～農事組合法人　フラップあぐり北三沢（三沢市）～

「田中稔賞」は、地域農業の振興に寄与し、本県稲作農業の発展に顕著な業績をあげた個人及び団体に贈られる、稲作部門では県内で最も権威のある賞である。

農事組合法人フラップあぐり北三沢は、平成23年、仏沼湿地に隣接する耕作放棄地の解消と、北三沢地区における営農の継続を目的として設立された。同地区では、昭和に整備された700haを超える水田の大半が耕作放棄地となっていたが、県営基盤整備事業を契機に地域で話し合いを重ね、約100haの水田を集約・復田した。

＜法人の取組＞

①夏はヤマセが吹走するうえ湿地に隣接し地下水位が高く稲作に不利な当地区において、飼料用米専用品種を用い、乾田直播栽培技術による省力・低コスト栽培を確立し、専用品種「えみゆたか」で収量572kg/10aを確保（過去5年間のうち中庸な３年間の平均）した。②絶滅危惧種オオセッカで知られるラムサール条約登録湿地「仏沼」に隣接することから、オオセッカの繁殖期を避けて工期を設定し、生息する生物の生態に配慮して水路を整備するなど、周辺環境に配慮して１haの大区画水田に再生した。③法人が生産した飼料用稲の流通・加工・販売を耕畜双方にメリットのある体制に構築した。

この度の受賞は、これらの業績が高く評価されたことによるものである。

ほ場の所在地

三村知事から表彰を受ける川嶋副代表理事

記念写真

川嶋副代表理事による業績発表（写真提供：農産園芸課）

３　農業経営士・青年農業士の認定

農業経営士は、優れた農業経営を実践し地域農業や農村生活のリーダーとして指導的役割を果たしている農業者を県知事が認定し、その指導活動の促進を図る制度である。上北管内では令和３年４月１日現在36名が活躍しており、今年度新たに５名が認定された。

青年農業士は、自ら農業及び集団活動に積極的に取り組み、将来とも地域農業の推進者となり得る模範的な農業青年を知事が認定し、その資質向上を図る制度である。上北管内では令和３年４月１日現在33名が活躍しており、今年度新たに５名が認定された。

（１）農業経営士

ア：市町村
イ：経営内容
ウ：主な組織活動
エ：今後の目標

小又　　亮　（こまた　まこと）氏

ア：七戸町
イ：水稲、施設野菜（小ねぎ、こまつな）
ウ：七戸町農業委員
エ：効率的な農業経営を実現するため、水稲については、ドローンによる病害虫防除や密苗及び鉄コーティング種子を用いた栽培の導入、施設栽培については、雇用を確保しながら回転率や商品化率を更に向上させ農業所得を伸ばし、低コスト化を進めていきたい。

木野　幸助　（きの　こうすけ）氏

ア：六戸町
イ：露地野菜（ごぼう、ながいも、にんにく）
ウ：吉田塾塾長（県南農家の農業情報交換組織）
エ：地域の親しき仲間との共同法人化も視野に置きながら、今後も立ち止まることなく、家族・仲間と話し合いながら一日一日の農業経営を行っていきたい。

竹内　伸也　（たけうち　しんや）氏

ア：六戸町
イ：露地野菜（ながいも、ごぼう、にんにく）
ウ：おいらせ農協やさい推進委員会六戸地区ながいも部会部会長
エ：作業の軽労化の目的でドローンを導入して防除作業などのスマート農業に取り組んでいる。また、若手農業後継者から目標としてもらえる存在になれるように努力し、行政や農協とも協力しながら、地域農業振興に積極的に取り組みたい。

甲地　優志　（かっち　まさゆき）氏

ア：東北町

イ：露地野菜（だいこん、ながいも、にんにく）

ウ：ゆうき青森農協ながいも部会部会長

エ：面積を拡大することよりも収益性を重視し、面積は現状のままで売上や所得の向上を目指す方向性で法人化を目指したい。また、今後も現在行っている取組みや活動を継続しながら、品質向上や作業性の改善など新たに取り組み、担い手の育成と地域農業の発展に寄与し、地域や仲間とともに楽しい農業を実践していきたい。

相坂　英輝　（あいさか　ひでき）氏

ア：おいらせ町

イ：露地野菜（キャベツ、だいこん）

ウ：十和田おいらせ農協ももいし支店野菜振興会役員

エ：これからの担い手確保のため、感覚の農業ではなく、数値化された農業をアピールすることで、分かりやすく簡単に覚えることのできる農業に取り組みたい。

（２）青年農業士

ア：市町村
イ：経営内容
ウ：主な組織活動
エ：今後の目標

土嶺　　要　（つちみね　かなめ）氏

ア：十和田市
イ：水稲、露地野菜（ねぎ、にんにく）
ウ：十和田おいらせ農協青年部青年部長
エ：安心・安全な野菜づくりと言われる中で、収量増や品質向上を常に目標におき、有機質資材の活用や減農薬を心がけている。また、野菜づくりの基礎である土づくりに注目した土壌分析・診断をもとにバランスのとれた活力ある土壌を目指し、生産性を向上させていきたい。

佐々木　憲　（ささき　あきら）氏

ア：六戸町
イ：露地野菜（ごぼう、ながいも、にんにく）
ウ：六戸町農業後継者の会会長
エ：両親が高齢になってきているので、しばらくの間は現状を維持しつつ、高品質化、収量アップに向け安定した基盤を築き、将来は規模拡大を図っていきたい。

四木　誉将　（しき　のりゆき）氏

ア：六戸町
イ：露地野菜（ごぼう、にんじん、ながいも）
ウ：六戸町農業後継者の会会長（R元.6～R3.6）
エ：ごぼうを中心に、消費者に喜ばれるような安全・安心で高品質な露地野菜を作っていけるよう、農家の先輩方やおいらせ農協、六戸町、青森県の方々の指導も仰ぎながら、経営規模を拡大したい。また、近年、農業は高齢化や雇用問題が増えてきているので、機械化により効率化を図り、少人数でもできる農業を目指していきたい。

濱田　勇太　（はまだ　ゆうた）氏

ア：東北町

イ：露地野菜（にんにく、ながいも、ごぼう）

ウ：ゆうき青森農協トロフィー長芋生産部会役員

エ：品目ごとの作付面積は、労働時間や収支状況に応じて増減させるとともに、種子更新は継続しながら、ながいもの自家採種の種子についても栽培技術を向上させる余地があると考えており、今後は重点的に取り組んでいきたい。

越沢　正輝　（こしざわ　まさき）氏

ア：おいらせ町

イ：露地野菜（キャベツ、だいこん）

ウ：甲洋小学校PTA保健委員委員長

エ：現在外注しているキャベツのセルポット苗を自家育苗するなど、これまで以上に作業の効率化や経費の削減を図り、家族の負担を軽減する作業体制を作りたい。また、青森県はキャベツの有名な産地ではないが、少しでも多くの皆様に知ってもらえるように販路を拡大して、品質はどこにも負けない安全・安心なおいしいキャベツの生産に取り組みたい。

４　ＶｉＣ・ウーマンの認定

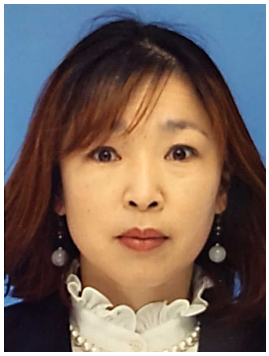
県では、特色ある地域農林水産業や住みよい社会づくりに取り組み、優れた地域活動の実績を持つ農山漁村女性リーダーを、知事が「ＶｉＣ・ウーマン」として認定している。本制度は、平成６年度からスタートし、現在、県内全体で262名のＶｉＣ・ウーマンが、地域農林水産業の振興や農山漁村の活性化の推進役を担っている。

上北管内では、令和３年４月現在53名がＶｉＣ・ウーマンとして活躍しており、今年度新たに次の２名が認定された。

ア：市町村
イ：経営内容
ウ：主な組織活動
エ：今後の目標

立崎　文江　（たちざき　ふみえ）氏

ア：十和田市
イ：果樹、農産加工、農家レストラン
ウ：（株）産直とわだ会員
エ：（一社）日々木の森の代表として、自家作物や地元食材を用いた料理を提供する「農園カフェ日々木」を経営するなど、地産地消や地域経済・流通の発展に貢献していきたい。また、「農福連携」に取り組み、障がい者雇用を積極的に行い、農業と食と福祉がつながる共生社会を目指していきたい。



工藤　優美子　（くどう　ゆみこ）氏

ア：十和田市
イ：水稲、畑作
ウ：十和田市農業委員会農地利用最適化推進委員
　　十和田農業体験協議会委員
エ：農家の後継者として主体的に農作業に携わりながら、小中学生の農作業体験の受入れを行い、農業や食の大切さを実感してもらっている。十和田市農業委員会など、所属する組織等の仲間とのつながりを大切にし、これからも地域農業の振興に努めていきたい。

５　あおもり土づくりの匠の認定

「あおもり土づくりの匠」は、青森県において、健康な土づくりを牽引し、県内生産者の模範となる高度な土づくりに取り組む生産者を県知事が認定する制度である。令和３年度は管内から１名が認定され、当管内の認定者は合計で26名となった。

ア：市町村
イ：経営内容
ウ：主な取組

中岫　均　（なかぐき　ひとし）氏

ア：七戸町

イ：水稲、にんにく、ながいも、トマト、アピオス

ウ：土壌診断による適正施肥、堆肥や有機質を含む肥料を活用した化学肥料の削減及び適期防除による農薬の削減を図り、健康な土づくりを基本とした環境に優しい農業を実践している。

　また、10年以上前から特別栽培農産物の栽培に取り組み、特別栽培農産物の生産における地域のリーダーとなっている。